



あいさつはなんのために

5月21日から24日までの4日間、松浜中学校と荒浜小学校で「あいさつ運動」を行いました。小学校の玄関にも中学生が来てくれて、小中一緒に地域のあいさつを活性化しようとがんばってくれました。

私自身が小学生の時にもあいさつ運動があり、学校の玄関前であいさつを行いました。



当番の日は朝早く行かなくてはならず、前向きになれなかったことを覚えています。当時の教頭先生に「あいさつは何のためにするものなんですか。」と聞いたところ「あいさつは自然に出るものです。」と答えていただきましたが、なんのために？と聞いたのに、その部分に対しては今一つはっきりせず…モヤモヤが残ったままでした。私は、あいさつはなんのためにするのか？と考える子どもでしたが、それとは真逆のことを考えるお子さんもいます。

先日、中学年の児童から手紙をもらう機会があり、そこには次のように書かれていました。「校長先生が毎朝あいさつをしている時、私もあいさつを返したいけれど、元気が出なくてあいさつを返していません。ごめんなさい。あいさつしたい気持ちはあるけど、礼をするだけにしています。でも、ちょっとずつ声を出せるようにがんばります。」自分に向けられたあいさつに対し、満足いく対応ができなかったことを申し訳なく思っているのです。それをわざわざ手紙に書いてくれました。あいさつは何でしなくちゃいけないの？という感覚とは反対に、なんとか声を出したいと考えているお子さんです。

この子の手紙から『あいさつをする』ということは、相手に対するやさしい気持ちであったり、温かい気持ちであったり、気遣う気持ちであったりすることであり、それが声として出ることなんだろうなと気づかされます。

声が出ている出ていないも大事ですし、元気のよいあいさつからムードが高まることも確かですが、それだけでなく、その子一人一人の持つやさしさが育まれながら、声が出てくるといいなと思っています。

中学校区にあいさつの輪が広がるとともに、やさしさの和も広がるといいなと感じています。